

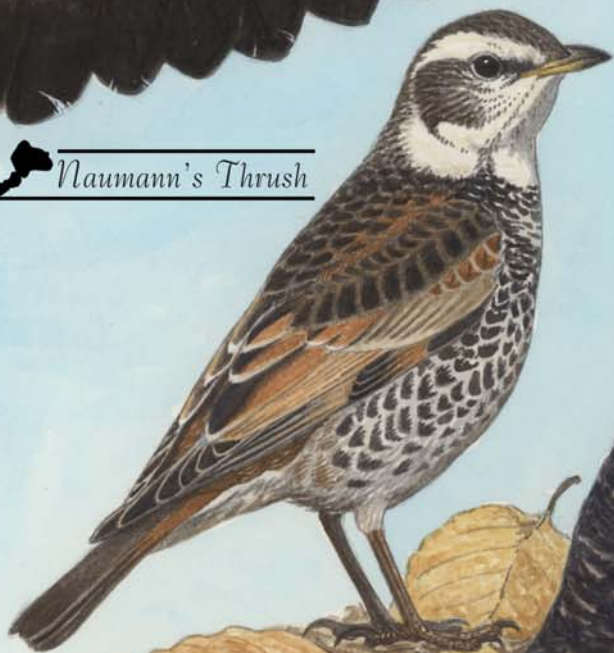
# 日本鳥学会 2023年度大会

## 講演要旨集



 Golden Eagle

 Naumann's Thrush



 Rock Ptarmigan

2023年9月15日(金)～18日(月・祝日)

金沢大学角間キャンパス 金沢市文化ホール

*Y. Minowa*  
2023

# 日本鳥学会 2023 年度大会 講演要旨集

The Ornithological Society of Japan Annual Meeting 2023

会期：2023 年 9 月 15 日～18 日

会場：金沢大学角間キャンパス

金沢市文化ホール（公開シンポジウム）

大会ウェブサイト



# 目次

大会案内 .....	1
公開シンポジウム .....	13
大会プログラム .....	15

表紙：箕輪義隆

# 大会案内

## 【概要】

主催：日本鳥学会

協賛：サントリーホールディングス株式会社、株式会社モンベル、Druid Technology

協力：金沢大学

後援：公益社団法人全国高等学校文化連盟、高等学校文化連盟全国自然科学専門部

会期：2023年9月15日（金）～18日（月・祝）

会場① 9月15日；加賀市鴨池観察館（鳥の学校）

（石川県加賀市片野町 2-1）

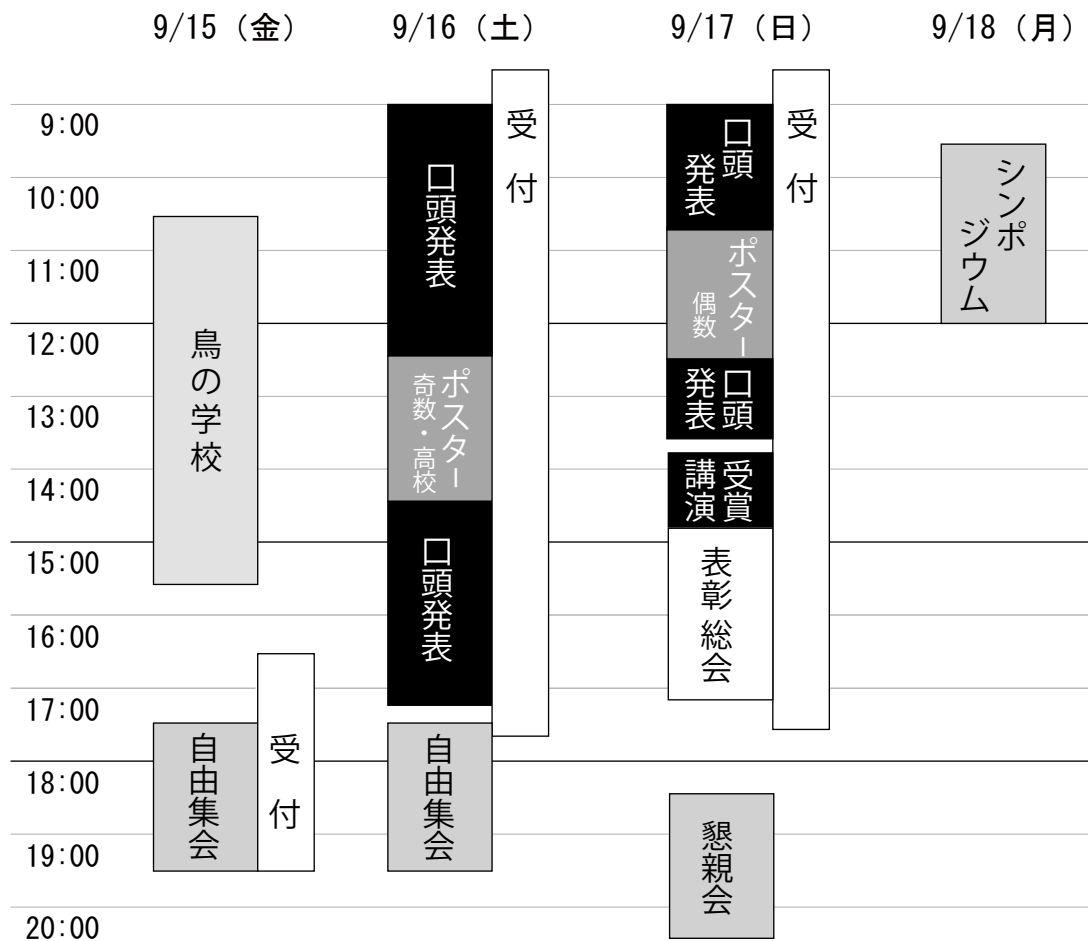
会場② 9月15日～17日；金沢大学角間キャンパス（メイン会場）

（石川県金沢市角間町、金沢駅よりバス約 38 分）

会場③ 9月18日；金沢市文化ホール（公開シンポジウム会場）

（石川県金沢市高岡町 15 番 1 号、小松空港から車で約 34 分、金沢駅よりバス約 15 分）

## 【日程】



### 【受付】

- ・受付開始時間は、15日は16：30、16日・17日はいずれも8：30です。
- ・ポスターの掲示可能期間は16日（土）8：30～17日（日）14：00です。コアタイムは奇数番号のポスターが16日12：30～14：30、偶数番号が17日10：30～12：30、高校生発表が16日12：30～14：30です。

### 【COVID-19 への対応について（体調が悪くなった場合）】

- ・発表予定の方が大会期間前または大会期間中に、風邪症状や体調不良、新型コロナウイルス感染者となり発表できなくなった場合、「口頭/ポスター、演題」などの情報を、大会の発表問合せ窓口 **happyo@ornithology.jp** まで速やかにお知らせください。口頭発表の場合は、オンライン（Zoom）での発表が可能な場合があります。ポスター発表については、大会事務局がポスターの掲示と撤去を代行します。ポスター口頭・聴講のみの大会参加予定の方が新型コロナウイルス感染者となった場合は、大会参加者への感染拡大防止のため、マスクを着用し、参加の可否について慎重にご検討ください。
- ・懇親会参加予定の方が、風邪症状や体調不良、新型コロナウイルス感染者となった場合は、参加をご遠慮ください

## 【内容】

### 1) 鳥の学校

「ガンカモ類研究のための捕獲技術実習」

2023年9月15日（金） 10：30～15：30

鳥類研究を実施する上で、鳥類を捕獲する技術は欠かせません。石川県の片野鴨池は、坂網猟という伝統猟法でカモ猟が行われており、坂網猟で捕獲したカモ類の追跡研究が実施されてきました。鴨池での活動紹介を櫻井佳明さん（加賀市鴨池観察館）、鴨池でのカモ研究の裏話を田尻浩伸さん（日本野鳥の会）、坂網猟の網投げ体験を地元の猟師の方々に教えていただきます。さらに、澤祐介さん（山階鳥類研究所）によるガンカモ類のいろいろな捕獲方法の紹介とくくりわなの作成および発信機の装着実習を行います。

※申込は6月16日に締め切りました。

## 【交通アクセス・会場案内】

加賀市鴨池観察館

（石川県加賀市片野町 2-1）



## 【加賀市鴨池観察館周辺の地図】



出典：加賀市鴨池観察館の HP(<https://kamoike.kagashi-ss.com/access.html>)



## 2) 大会メイン会場

金沢大学角間キャンパス・南地区・自然科学研究棟（講義棟・大講義棟）

参照：<https://www.nst.kanazawa-u.ac.jp/info/apr.html>



### 【金沢大学角間キャンパスへの交通案内】

#### バス（北陸鉄道）

金沢市街⇄金沢大学 金沢大学自然研前

金沢市街と金沢大学を結ぶ路線バス（金沢大学線 路線番号 93、94、97）が運行されています。料金 370 円、所要時間 38 分（金沢駅前～金沢大学自然研前の場合）

#### 金沢大学線

（9月16日と17日の主な時間 詳細は [http://www.hokutetsu.co.jp/route\\_timetable](http://www.hokutetsu.co.jp/route_timetable)）

金沢駅バスターミナル→自然研前		自然研前→金沢駅バスターミナル	
	07:28→07:58（16日のみ運行）		16:16→16:53
	07:53→08:20		17:04→17:41
	08:33→09:03		17:14→17:51（16日のみ運行）
	09:13→09:41		17:49→18:26
	09:53→10:24		18:41→19:16
	10:38→11:06		18:56→19:31
	11:03→11:31		19:43→20:18
	11:53→12:21		20:43→21:18

※大会参加者向けに、9月16日と17日に金沢駅（金沢駅西広場団体バス乗降場）から金沢大学までの臨時直通バス（500円）を運行します。予約なしの先着制です。金沢駅東口の金沢大学行き

路線バス乗り場と異なるので注意してください。9月16日は金沢駅西口 8:10 発、金沢大学自然研前 8:45 着のバスが 2 台（定員 40 名×2）、金沢大学自然研前 19:45 発（自由集会終了後）、金沢駅西口 20:20 着のバスが 2 台（定員 40 名×2）、9月17日は金沢駅西口 8:10 発、金沢大学自然研前 8:45 着のバスが 3 台（定員 40 名×3）、金沢大学自然研前 17:50 発（総会終了後）、KKR ホテル金沢 18:15 着のバスが 3 台（定員 40 名×3）になります。団体名は「日本鳥学会 2023 年度大会」です。詳細は大会ウェブサイトでご確認ください。

※懇親会会場にご自身で移動される方は、遅くとも自然研前発 17:49 までのバスに乗ってください。最寄り「武蔵が辻」バス停です。

## タクシー

### 金沢市街⇄金沢大学

料金約 3,300 円、所要時間約 23 分（金沢駅～金沢大学の場合）

石川交通 : 076-231-4131 <https://www.ishikawakotsu.jp/company/center.html>

石川近鉄タクシー : 0570-08-3265 <http://ishikawakintetsu.co.jp/howto.html>

富士タクシー : 076-237-1020 <https://www.fuji-taxinet.jp/reserve/>

## 自家用車

- ・自家用車をご利用の方は、構内地図の「仮あ」、「仮い」の駐車場に駐車してください。駐車許可証は、大会参加申込時に駐車場利用を希望された方には、事前にメールでお送りします。印刷してフロントガラスの必ず見える位置に置いておいてください。新規に駐車場を利用したい方や駐車許可証を忘れた方は、会場受付で臨時駐車許可証を受け取り、速やかに掲示してください。
- ・この駐車場は自動車専用です。自動二輪、原動機付き自転車での来場はお断りしています。

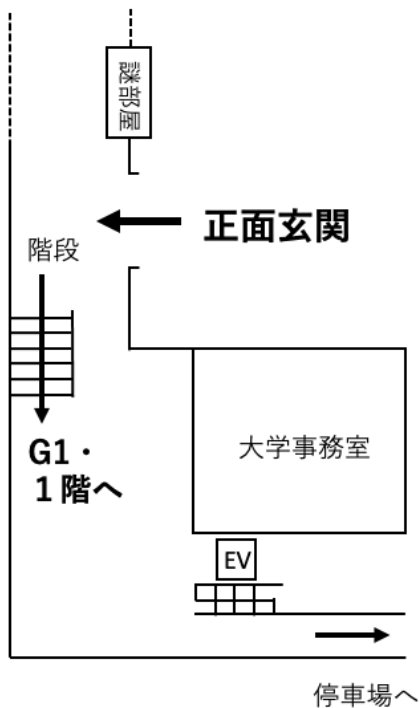


【金沢大学角間キャンパス 自然科学研究棟（講義棟・大講義棟）構内の地図】

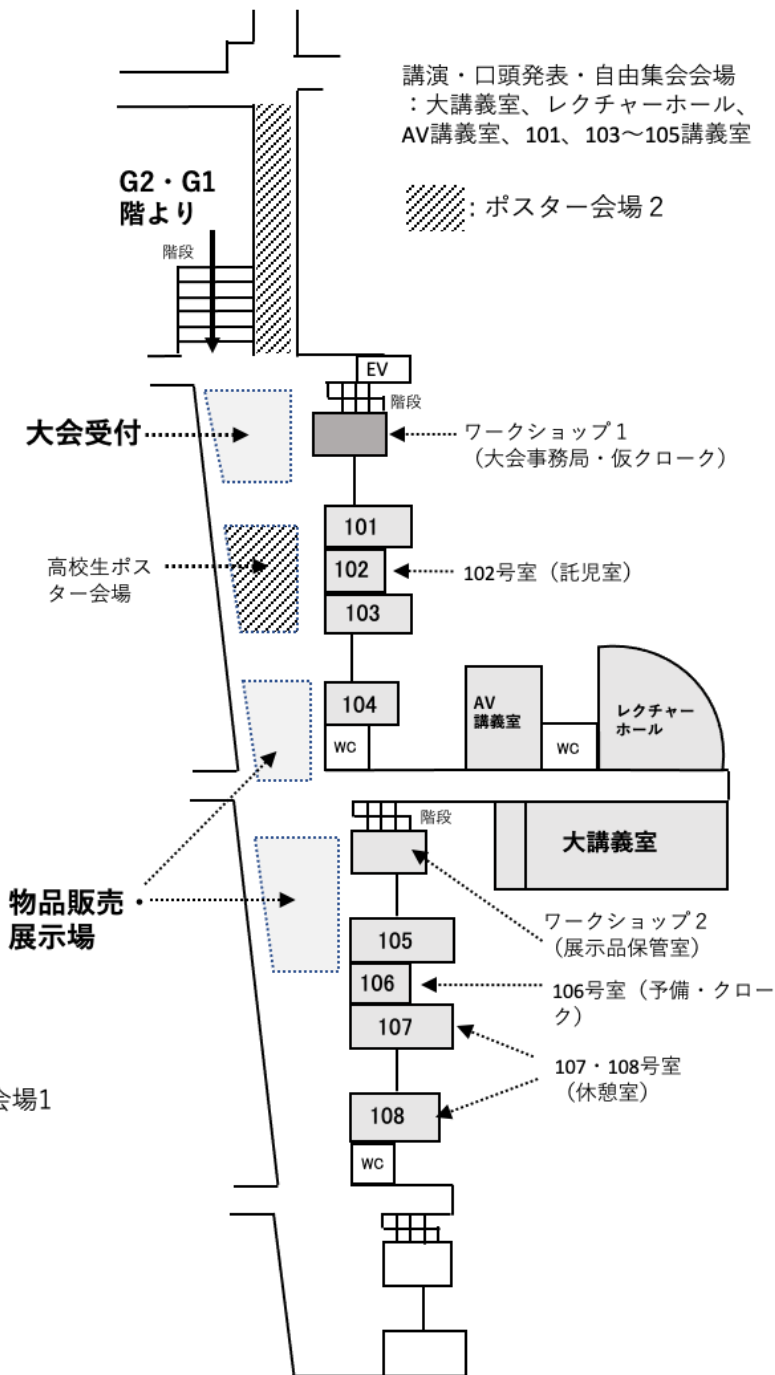


【会場地図】

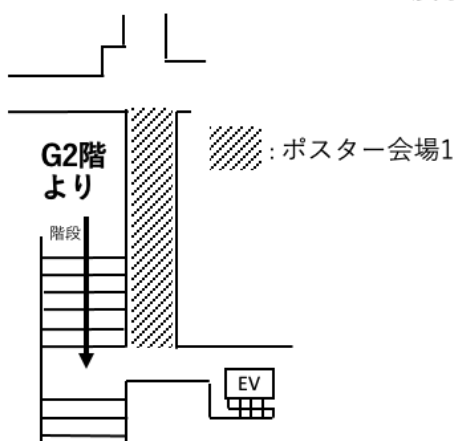
**G2階**  
エントランスホール



**1階会場**



**G1階会場**



### 【会場内の案内と注意】

- (1) 自然研バス停前の正面玄関から入館し、G2階エントランスホール左手の階段を上がって1階に大会受付があります。最初に参加手続きをしてください。
- (2) 講演・口頭発表・自由集会の会場は大会受付と同じフロアの1階の大講義室、レクチャーホール、AV講義室、101、103～105講義室になります。
- (3) ポスター会場はG1階（会場1）と1階（会場2）のオープンスペースになります。
- (4) 展示・販売は大講義棟への入り口のスペースになります。
- (5) エレベーターはG2階、正面玄関左奥の大学事務室の横にあります。
- (6) 会場への出入りは正面玄関のみからでお願いします。他の入口は自動施錠になっており、入れなくなることがあります。ご注意ください。
- (7) 飲食は休憩室でお願いします。他の講演会場での飲食はしないでください。また会場外から持ち込まれたゴミ類については持ち帰りにご協力ください。
- (8) 参加者向けのフリーWiFiはありません。

### 【受付】

大会受付は、1階です。

15日（金） 16：30～18：30

16日（土） 8：30～18：00

17日（日） 8：30～18：00

名札をお渡ししますので、会場では必ず着用ください。

※18日（月）の公開シンポジウム会場では、大会の受付はありません。

### 【クローク】

クロークは、9月15日～17日に1階受付近くの大会事務局内に設けます。

15日（金） 8：30～19：30

16日（土） 8：30～17：45

17日（日） 8：30～17：30（総会終了まで）

※貴重品はお預かりできません。荷物は各日の終了時刻までに、必ずお引き取りください。終了時刻に部屋を施錠しますので、以後の引き取りができなくなります。

### 【託児サービス】

大会期間中に小学生までを対象とする託児サービスをご案内します。万が一の事故などの場合は、保育委託先と利用者の契約により、保険の適用範囲で保障されます。大会実行委員会は一切の責任を負わないことをご了承下さい。

### 【評議員会・各種委員会】

大会開催前にオンラインで実施しました。

### 【総会と総会委任状】

大会期間中に総会が開催され、学会の重要な議題が審議されます。総会に参加しない方は、総会委任状を記入し、大会受付にある箱に提出してください。

### 【表彰・受賞講演】

9月17日（日）13：45～14：45に大講義室にて表彰と受賞記念講演が行われます。

### 【一般講演：口頭発表】

#### 時間と機材

発表時間 12分以内、質疑を含めて 15分以内を厳守して下さい。使用できる機器は大会事務局が用意したコンピューターです。OSはWindows 10、使用できるアプリケーションはOffice 2021LTSC（MS-PowerPoint 2021、他のバージョンでファイルを作成した場合、プレゼンテーション機能の一部を利用できない恐れがあります）、またはAdobe Acrobat Reader DC-Japanese、FoxIt PDF Editor Pro 12、使用可能なファイル形式はppt、pptx、pdfです。個人のコンピューターは基本的に使えません。

#### 発表ファイルの提出

口頭発表用のファイルは、発表の前日17時までに、受付に提出して下さい。ファイルはUSBメモリーでの提出とし、ファイルサイズ20MB以内とします。なお、16日（土）に発表される方については、メール添付による提出も受け付けますので、15日（金）17時までに専用アドレス（happyo@ornithology.jp）までお送り下さい。ファイル名は「会場名（AまたはB）\_発表番号」として下さい。会場名と発表番号は大会ウェブサイトに掲示します。お預かりしたファイルは、発表終了後に大会事務局が責任を持って消去します。

#### 座長

本大会でも、口頭発表をされた方には直後の発表の座長（司会進行）を担当していただきます。皆様のご協力をお願いします。

### 【一般講演：ポスター発表】

- ・ポスターはA0サイズ（横841mm×縦1189mm）以内になるようご用意下さい。掲示用ボードは横1100mm×縦1700mmです。掲示用具は大会事務局で用意します。
- ・ポスターは16日（土）8時30分から17日（日）14時（受賞記念講演、総会前）まで掲示しておくことができます。ポスターの掲示と撤去は各自の責任でお願いします。掲示期間後も掲示されているポスターは大会事務局が撤去します。
- ・演者はポスターの前で説明を行って下さい。ポスターの説明は16日（土）午後または17日（日）午前実施して頂きます。各演者の説明日時の割り当てについては、大会プログラムまたは大会ウェブサイトでご確認下さい。

### 【ポスター賞】

若手の独創的な研究を奨励する目的で「日本鳥学会ポスター賞」を募集します。応募方法・応募資格等詳細は「2023 年度 日本鳥学会ポスター賞募集要項」をご覧の上、ふるってご応募下さい。ポスター賞応募者は、必ず 9 月 16 日（土）午前 11 時 00 分までに掲示して下さい。

### 【自由集会】

- ・自由集会は、大会参加者を対象とした「特定のテーマをもった鳥学の研究会」であり、日本鳥学会会員が参加者のために企画する集会です。自由集会にのみ参加される方も必ず大会参加費をお支払い下さい。また、主催者が非会員を講演者として招待したい場合は、参加費の免除を開催申し込み時に大会事務局にご相談下さい。
- ・自由集会会場には液晶プロジェクターおよびモニターケーブル（ミニ D-sub15pin および HDMI）が備え付けられています。パソコンは自由集会の主催者がご用意下さい。自由集会における会場の運営・後片付けは、主催者の責任で行って下さい。

### 【高校生によるポスター発表】

- ・受付及びポスター掲示は 9 月 15 日（金）午後から 16 日（土）午前での間にお済ませください。学校やグループ単位でご参加の場合、受付は個人ごとではなく、団体単位で行ってください。
- ・会場は 1 階の大会受付そばです。
- ・ポスターは A0 サイズ（横 841mm×縦 1,189mm）以内におさまるようにご用意ください。掲示用具は大会事務局で用意します。演者はポスターの前で説明を行って下さい。ポスターの説明は 16 日（土）12：30～14：30 に実施して頂きます。詳細の時間は、大会プログラムまたは大会ウェブサイトでご確認下さい。
- ・ポスター賞の審査は、大会実行委員会が選定した審査員が行います。審査方法や審査基準の詳細は公表しませんが、2023 年度日本鳥学会ポスター賞募集要項に沿った形で、公正かつ厳格に実施いたします。ポスターの審査を希望されない場合は事前にお知らせください。ポスター賞の表彰は、17 日（日）14：45～15：05 に行います。

### 【懇親会】

- ・9 月 17 日（日）18：30 から懇親会を開催します。会場は、金沢市内の KKR ホテル金沢の鳳凰の間です。  
<https://www.kkrhotelkanazawa.gr.jp/access>
- ・なお、新型コロナウイルス感染症対策のため費用が変更になったり、大会直前にやむを得ない状況で懇親会が開催できなくなったりする可能性があります。
- ・体調不良の方や新型コロナウイルス感染者は、参加をお控えください。



**【展示販売】**

利用時間は以下のとおりです。

15日：15時～18時

16日：9～18時

17日：9～15時

**【昼食】**

大会期間中、金沢大学の食堂は、休業しています。なお会場周辺には飲食店はありませんので、事前に各自でご用意いただき、休憩室等で召し上がってください。最寄りのコンビニ（ファミリーマート金沢大学店）まで約1キロです。飲み物の自動販売機は、会場内にあります。

**【休憩室】**

15～17日：1階107号室、108号室

**【撮影・録音・禁煙】**

参加者の肖像権、発表における著作権への配慮のため、参加者が他者や他者の発表の録音、録画、撮影等を行うことは禁止します。なお、大会事務局において、大会の記録のため写真撮影等を行うことがありますのでご了承下さい。



### 3) シンポジウム会場

金沢市文化ホール

石川県金沢市高岡町 15 番 1 号



#### 【金沢市文化ホールへの交通案内】

・JR 金沢駅からタクシー約 10 分、バス約 15 分※

※ バスのご案内

金沢駅前（東口バスターミナル）3 番・8～11 番のりば「南町・尾山神社」下車 徒歩約 3 分

・小松空港から空港連絡バスで金沢駅まで 約 40 分、金沢駅より上記路線バスに乗換後、約 15 分

・来館者用の駐車場を設けてありませんので、周辺有料駐車場をご利用ください。

#### 【金沢市文化ホールの周辺有料駐車場】



#### 主な周辺有料駐車場

- ① システムパーク高岡町No.2
- ② Dパーキング  
こちら武家屋敷そば高岡町PS第1
- ③ Dパーキング金沢市高岡町第1
- ④ タイムズ金沢高岡町
- ⑤ 三井のリパーク金沢高岡町第2
- ⑥ 名鉄協商パーキング金沢尾山神社前
- ⑦ 名鉄協商パーキング金沢南町第2
- ⑧ システムパーク文化ホール前
- ⑨ タイムズ金沢香林坊
- ⑩ 北國パーク
- ⑪ タイムズ金沢文化ホール前

※駐車料金、営業時間、駐車台数等は各駐車場でご確認ください。

出典：金沢市文化ホール HP(<https://www.bunka-h.gr.jp/access/>)

## 公開シンポジウム

【公開シンポジウム案内】

## 『専門家が語る鳥類学の面白さ～身近な鳥のふしぎ・ひみつ～』

**開催日：2023年9月18日（月・祝）**

**時間：開場 9:00, 開演 9:30, 閉演 12:00**

**場所：金沢市文化ホール（石川県金沢市高岡町15番1号）**

**趣旨：**ふだん身近にいる鳥たちも、多くの謎を秘めています。全国から5名の鳥類学者をお招きし、鳥たちのふしぎやひみつ、鳥類研究の面白さや意義について、鳥類学に馴染みのない方々や子ども達にもわかりやすく語ってもらいます。本シンポジウムを通じて、身近な鳥たちに興味を持ってくれる方や、未来の鳥類学者を目指す子どもたちが増えることを願っています。

\*どなたでも、お申し込み不要で聴講いただけます。内容は、小学校高学年以上を想定していますが、未就学児の同伴も可能です。

### 【公開シンポジウムプログラム】

開会挨拶：日本鳥学会 2023年石川大会会長 大河原 恭祐（金沢大学 理工研究域）

#### 1. スズメのひみつ

三上 修 （北海道教育大学 教育学部函館校）

#### 2. 守りたいから調べたいーカモを調べて保全に活かすー

田尻 浩伸 （（公財）日本野鳥の会）

#### 3. 美しさと愛らしさのツバメ学

長谷川 克 （石川県立大学 生物資源環境学部）

#### 4. 河川の鳥たちのしたたかな暮らし

笠原 里恵 （信州大学 理学部）

#### 5. カラスなんか呼んでも来ないー実験は試行錯誤ー

松原 始 （東京大学 総合研究博物館）

講評：日本鳥学会会長 綿貫 豊（北海道大学大学院 水産科学研究院）

司会：日本鳥学会 2023年石川大会実行委員長 上野 裕介（石川県立大学 生物資源環境学部）

# 大会プログラム

【口頭発表】

16日（土）A会場（自然科学本館1階 大講義室） 9:00～10:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	A01	土地放棄と温暖化が日本の鳥類個体数トレンドを説明する	○片山直樹（農研機構）・藤田卓（NACS-J）・植田睦之（バードリサーチ）・天野達也（Queensland Univ.）
9:15	A02	1990年代から2010年代にかけての森林性鳥類の垂直分布の変化	○植田睦之（バードリサーチ）・葉山政治（日本野鳥の会）・植村慎吾（バードリサーチ）・大澤剛士（東京都立大）
9:30	A03	鳥類の生息地としての耕作放棄地の価値：全国スケールの評価	○北沢宗大（国環研）・山浦悠一（森林総研）・河村和洋（森林総研）・先崎理之（北大）・中村太士（北大）
9:45	A04	耕作放棄地を用いた鳥類の保全：北海道の湿地・草地性種による検証	○Buhus Roxana Georgiana・先崎理之（北大）・北沢宗大（国環研）・河村和洋・清水雄彦・堀隼輔（北大）
10:00	A05	農地パッチのサイズと周囲の森林が鳥群集と耕作放棄地の関係を変える？	○藤田剛（東大・農）・片山直樹（農研機構）
10:15	A06	Bird Sound Collection using Acoustic Equipment and Species Classification Performance Evaluation using Artificial Intelligence	Choi Byungjin <sup>1</sup> ・Ko Hanseok <sup>2</sup> ・Shin Yongtak <sup>1</sup> ・○Jaramier Cobrado Joibi <sup>1</sup> ・Ko Kyungdeuk <sup>2</sup> ・Oh Hongsick <sup>3</sup> <sup>1</sup> Shinhwa Engineering Corporation・ <sup>2</sup> Korea Univ, School of Electrical Engineering・ <sup>3</sup> Jeju National Univ)

16日(土) B会場(自然科学本館1階 レクチャーホール) 9:00~10:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	B01	繁殖期のハリオアマツバメのねぐら入りと活動開始の時間：日長と繁殖ステージとの関係	○森さやか・栗本真衣・津田真美加・小林和楽・森田暖々(酪農大・環境動物), 今野怜・今野美和(山階鳥研協力調査員), 和賀大地(EFP), 山口典之(長崎大・院・水環), 樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)
9:15	B02	ベニアジサシの繁殖および越冬状況	○尾崎清明(山階鳥研)・渡久地豊(工房リュウキュウロビン)・Paul O'Neill(Pomona, Queensland, Australia)・富田直樹(山階鳥研)
9:30	B03	コアジサシの巣で見られる一腹卵数を越える卵の由来に関する一考察	○早川雅晴(植草学園大)
9:45	B04	リュウキュウコノハズクの生存率に関する考察	○高木昌興(北大・院理・多様性生物)・澤田明(国環研・学振PD)
10:00	B05	ミツユビカモメの繁殖成績と生理状態の関係：酸化ストレスを指標として	○中嶋千夏(筑波大院・生), JG Cecere(Univ Milan), KH Elliott(McGill Univ), MC Gatt(Univ Milan), SA Hatch(ISRC), 新妻靖章(名城大・農), DJ Léandri-Breton(McGill Univ), 湊健一郎(名城大・農), JF Obiol(Univ Milan), D Rubolini(Univ Milan), S Whelan(McGill Univ), 庄子晶子(筑波大院・生)
10:15	B06	ウトウ雛における給餌量制限に対する生理的応答	○永谷奈央(北大水産)・新妻靖章(名城大農)・綿貫豊(北大水産)



16日(土) A会場(自然科学本館1階 大講義室) 10:45~12:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
10:45	A07	二次草原におけるヨタカの分布特性	○水村春香(富士山研)・久保田耕平(東京大学)・樋口広芳(慶應大学)
11:00	A08	京都府南部の伐採跡地・茶畑に出現する鳥類：繁殖期	○中津弘(温帯文化景観調査研究所)
11:15	A09	Maxent Model を用いた札幌市におけるクマゲラの冬期分布推定	○猿舘聡太郎(東海大・院・生物)・雲野明(道総研)・松井晋(東海大・院・生物)
11:30	A10	オナガガモにおける鉛汚染およびインフルエンザ抗体量の免疫との関連性	○森口紗千子(日獣大)・牛根奈々(ヤマザキ動物看護大)・若山絵夢・加藤卓也(日獣大)・嶋田哲郎(伊豆沼財団)・杉野目斉(仙台市)・足利直哉(わいるどらいふ秋田)・中山翔太・石塚真由美(北大)・羽賀淳・大沼学(国環研)・山口剛士(鳥取大)・田中良和・羽山伸一(日獣大)
11:45	A11	国内の猛禽類及びガンカモ類における2022年以降の鉛汚染状況と曝露源の解明	○丸山瑞貴・銅谷理緒(北大・獣医)・牛根奈々(ヤマザキ動物看護大)・小笠原浩平(北大・獣医)・渡辺有希子・齊藤慶輔(猛禽類医学研究所)・栗谷豪・中川光弘(北大・理)・池中良徳・石塚真由美・中山翔太(北大・獣医)
12:00	A12	海鳥が媒介する海洋由来水銀の陸上生態系への波及効果	○大島康平(筑波大院・生)・新妻靖章(名城大・農)・綿貫豊(北大水産)・和田茂樹・庄子晶子(筑波大院・生)
12:15	A13	ミサゴの水銀濃度に影響を及ぼす要因を探る	○鈴木龍晟(筑波大院・生)・嘉藤慎讓(株式会社地域環境計画)・太田吉厚(宮城県森林インストラクター)・太田理恵(株式会社宮城環境保全研究所)・新妻靖章(名城大・農)・和田茂樹・庄子晶子(筑波大院・生)

16日(土) B会場(自然科学本館1階 レクチャーホール) 10:45~12:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
10:45	B07	ウトウにおける繁殖コストの違いが親の行動や雛の成長に及ぼす影響	○松本和也(筑波大院・生)・Chris Tyson(Univ. Wageningen)・新妻靖章(名城大・農)・綿貫豊(北大水産)・小島達樹(東洋大・生)・庄子晶子(筑波大院・生)
11:00	B08	天売島周囲海域におけるウトウの休息場所の季節変化	○風藤那実・綿貫豊(北大水産)
11:15	B09	天売島で繁殖するウミネコとウトウの餌種・採餌行動・繁殖成績の種間比較	○熊谷文・馬鋭・酒井理佐・大門純平・三上かつら・綿貫豊(北大水産)
11:30	B10	クラッチサイズと餌が異なる海鳥3種の繁殖時期と繁殖成績の長期的変化	○綿貫豊・大門純平・JB Thiebot(北大水産)
11:45	B11	小屋島で繁殖するカンムリウミスズメとヒメクロウミツバメの利用海域	○中原亨(北九州市博)・岡部海都((一財)九環協)・大槻恒介・天野孝保(長崎大・院・水環)・尾上和久(日本野鳥の会福岡支部)・西星哉((一財)九環協)・山口典之(長崎大・院・水環)
12:00	B12	出生地と繁殖地は似ていると言えるのか?	○桑原里奈(兵庫県大院・地域資源)・出口智広(兵庫県大院・地域資源, 兵庫県立コウノトリの郷公園)
12:15	B13	クマタカの繁殖生態 ~育雛期に巣へ搬入される餌の重量に着目して~	○中野晋(環境設計株式会社)

16日(土) A会場(自然科学本館1階 大講義室) 14:30~17:15

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
14:30	A14	本州中央部におけるカイツブリとバン、ゴイサギの激減について	○武田恵世(日本野鳥の会三重)
14:45	A15	本州中央部の高標高地域における森林性鳥類の約20年後の鳥類相の変化	○今西貞夫(長野県諏訪市)
15:00	A16	都市近郊・大阪府岸和田市内のため池で繁殖する鳥類の変化	○風間美穂(きしわだ自然資料館)
15:15	A17	日本におけるヘラシギの記録と生息環境の時空間的变化	○清水孟彦(北大院)・先崎理之(北大)・北沢宗大(国環研)・富田宏(中京学院大)・柏木実(EAAFPヘラシギ特別委)
15:30	A18	オオトラツグミー斉調査の30年	○石田健・川口和範・高美喜男・島隆穂
15:45	A19	探鳥会から捉えられる冬鳥の変動	○宮本竜也・近藤倫生(東北大・生命)
16:15	A20	日本におけるマガンの個体数動向とその背景	○嶋田哲郎(伊豆沼財団)・森晃(千葉中央博市民研究員)・田尻浩伸(野鳥の会)
16:30	A21	埼玉県中央部におけるカワセミ個体群の動態	○内田博
16:45	A22	福島第一原発事故による避難指示区域内外の鳥類相に影響する要因の検証	○熊田那央(国環研)・深澤圭太(国環研)・板谷浩男(パシフィックコンサルタンツ)・山本裕(野鳥の会)・吉岡明良(国環研)
17:00	A23	空間明示種分布モデルに基づくアルファ及びベータ多様性	○島谷健一郎(統計数理研究所)

16日(土) B会場(自然科学本館1階 レクチャーホール) 14:30~17:15

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
14:30	B14	サシバは船に乗って旅をする!	呉盈瑩(台湾猛禽研)・林勇智(台湾猛禽研)・樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)
14:45	B15	ロガーによるブッポウソウの行動追跡	○飯田知彦・渡辺伸一(一般社団法人日本希少鳥類研究所)
15:00	B16	ミゾゴイの渡り衛星追跡事例	○萩原陽二郎・小村健人・田悟和巳(いであ(株))・時田賢一・樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)
15:15	B17	GPS発信器追跡によるカリガネの渡りと環境利用	○澤祐介(山階鳥研)・池内俊雄(雁の里親友の会)・田村智恵子(新潟県水鳥湖沼ネットワーク)・仲村昇(山階鳥研)
15:30	B18	標識調査から得られたアマミヤマシギの生存期間と島内での移動の記録	鳥飼久裕・川口秀美(奄美野鳥の会)・○水田拓(山階鳥研)
15:45	B19	海を渡ったアマミヤマシギ	○鳥飼久裕・川口秀美(奄美野鳥の会)・藤井幹・松永聡美(日本鳥類保護連盟)
16:15	B20	ウミネコは情報探索のためすこしだけゆっくり飛ぶか?	○三上かつら(北大水産)・風間健太郎(早大人間科学)・綿貫豊(北大水産)
16:30	B21	レーザー測距儀による鳥類の飛行速度の計測	○斎藤史之・北川達朗・乃美大佑・山本晃一(いであ(株))
16:45	B22	衛星画像から水上の水鳥個体を判別可能か?	○酒井彩江(北大水産)・荒井頼子(リモート・センシング技術センター)・松本潤慶(公益財団法人日本野鳥の会)・綿貫豊(北大水産)
17:00	B23	日本沿岸海域における航空機を用いた海鳥の広域分布調査	○小村健人・萩原陽二郎・堀江源・田悟和巳(いであ(株))・樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)

17日(日) A会場(自然科学本館1階 大講義室) 9:00~10:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	A24	石川県における希少猛禽類の営巣情報のデータベース化と活用の試み	○稲葉弘之・星野彰弘・中谷聡・吉道俊一(アルスコンサルタンツ株式会社)・増川勝二・今森達也(有限会社北陸鳥類調査研究所)・上野裕介(石川県立大学)
9:15	A25	木曾岬干拓地のチュウヒが繁殖できなくなったのはなぜか	○近藤義孝(日本野鳥の会三重)
9:30	A26	再導入トキ個体群にはたらく密度効果の要因	○永田尚志・神田駿・中津弘(新潟大・自然共生セ)
9:45	A27	アカモズの域外保全に向けた近縁種モズの飼育技術の確立	○今井菜摘(一般社団法人野生生物生息域外保全センター)・北沢宗大(国立環境研究所)・先崎理之(北海道大学)
10:00	A28	チゴモズの生息地の保全について	○谷口裕紀・田悟和巳・神田修二(いであ株式会社)・樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)
10:15	A29	鳥類の蟻浴行動 anting の適応的意義について	○大河原恭祐(金沢大・生命理工)・亀井夢乃(金沢大・生命理工)・秋野順治(京都工繊大・生物資源)

17日(日) B会場(自然科学本館1階 レクチャーホール) 9:00~10:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	B24	鳥類標本の学術的価値を維持した羽試料の採集方法の検討	○岩見恭子・富田直樹(山階鳥研)・兵藤不二夫(岡山大)・武山智博(岡山理大)
9:45	B25	鳥島のアホウドリは未記載新種か?	○山崎剛史(山階鳥研)・江田真毅(北大)・杉田典正(東大)・西海功(科博)
9:15	B26	フクロウ類における性染色体性別判定領域の遺伝子構成の解明	○江寄真南・桃原研希(鹿児島大学)・羽賀淳(国立環境研究所)・所崎香織・原口優子・堀昌伸(鹿児島県ツル保護会)・奥谷公亮(鹿児島大学)・大沼学(国立環境研究所)・小澤真(鹿児島大学)
9:30	B27	種内における亜種ニホンライチョウの形態的特性	○江田真毅(北海道大学総合博物館)
10:00	B28	飛べないクイナが非対称の風切羽を持ち続ける理由	○山崎優佑(バードリサーチ)・山崎剛史(山階鳥研)
10:15	B29	足根中足骨骨幹の機能形態学的解析から推定するヘスペロルニス類の運動様式	○青塚圭一(立教大・東大総合博)・遠藤秀紀・佐藤英明(東大総合博)・中島保寿(東京都市大)・林昭次(岡山理大)・疋田吉識(中川町自然誌博)・佐藤たまき(神奈川大)・川上和人(森林総研)



17日(日) A会場(自然科学本館1階 大講義室) 12:30~13:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
12:30	A30	北海道における固定式視線誘導柱への鳥類の営巣	○三上修(北教大)・三上かつら(バードリサーチ) 上野裕介(石川県立大)・森本元(山階鳥研)
12:45	A31	都会の鳥は大胆で探索的:東京と茨城での野外実験から	○濱尾章二(国立科博・動物)
13:00	A32	谷根千カラス事情 -コロナ禍を経て-	○森下英美子(文京学院大学まちラボ本郷)

17日(日) B会場(自然科学本館1階 レクチャーホール) 12:30~13:30

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
12:30	B30	シジュウカラの尾脂腺分泌物の雌雄と季節変化の検証	○佐川南美(東海大・院・生物)・佐藤敦(東海大・生物)・松井晋(東海大・院・生物)
12:45	B31	マゼランペンギンにおける潜水時の首振り行動	○郡司芽久(東洋大)・福原洸(東北大)・佐々木理央(東洋大)・小川久介・加納剛史・石黒章夫(東北大)
13:00	B32	捕食者に対するケリの警戒音声とヒナの行動	○脇坂英弥(ひとはく地域研究員/関西ケリ研究会)・脇坂啓子(関西ケリ研究会)
13:15	B33	ガンカモ一斉調査を活用した水上太陽電池発電所設置によるカモ類渡来羽数の変化について	○尾原正敬

【ポスター発表】

奇数番号の発表のコアタイム：16日（土） 12：30～14：30

偶数番号の発表のコアタイム：17日（日） 10：30～12：30

会場：自然科学本館 G1階および1階 オープンスペース

\*：ポスター賞応募の発表には\*を付した。

発表 番号*	タイトル	発表者
P001	東北地方で繁殖するチゴハヤブサの巣の利用年数と繁殖成績	○立石淑恵（オホーツクミュージアムえさし）・高橋雅雄（岩手県博）・東信行（弘大）
P002*	隣接する繁殖地におけるウトウの採餌場所の隔離と共有	○小澤光莉・東條菜々花・金井田輝・仁部駿介（東洋大）・大島康平（筑波大・生）・島袋羽衣（明治大）・平田和彦（千葉中央博・分館海博）・伊藤元裕（東洋大）
P003	越冬期におけるチュウヒ類の個体数と分布の変動（2014-2023年）	○多田英行（チュウヒ保護ネットワーク）・平野敏明（バードリサーチ）
P004*	津軽海峡で繁殖するウミネコの餌および採餌域の経時的変化	○金井田輝・小澤光莉・東條奈々花・佐藤咲良・伊藤元裕（東洋大学）
P005	ウミネコの羽における水銀と窒素安定同位体比の関係	○新妻靖章（名城大農）
P006*	「ウミネコの水銀がストレスや繁殖・行動に及ぼす影響」	○寺田卓史（名城大学大学院 農学研究科 農学専攻）
P007	心拍数を指標としたウミネコにおける風車音の聴覚認知の検討	○友成瑛人（長岡技大）・白井正樹（電中研）・藤岡珠代・山本麻希（長岡技大）
P008*	高解像度で描く青森県蕪島のウミネコの成鳥と幼鳥の渡り	○杉山響己・水谷友一・依田憲（名大院・環境）
P009	ルースコロニーを形成するチョウゲンボウの行動時間配分における利益	○本村健（中野市教育委員会）・久野真純（京都大学大学院・情報学）・出口翔大（福井市自然史博物館）
P010*	オオアカハラは遺伝的・形態的に分化した「亜種」なのか？	○田中智（京大農卒）・辻本大地（京大農）・小田谷嘉弥（我孫子市鳥の博物館）・小西広視（小西鳥類研究所）・仲村昇（山階鳥類研究所）・井鷲裕司（京大農）
P011	小笠原諸島～伊豆諸島ツバメの渡り調査 2023 青ヶ島の春のツバメ	○重原美智子
P012*	オーストンウミツバメとオオミズナギドリにおける尾腺分泌物の定性分析	○寺嶋太輝（農工大院・獣医）・山本裕・田尻浩伸・手嶋洋子（日本野鳥の会）永岡謙太郎（農工大院・獣医）

発表 番号*	タイトル	発表者
P013	奄美大島に固有のオーストンオオアカゲラの行動圏に関する事例	○藤井幹（日本鳥類保護連盟）・鳥飼久裕（奄美野鳥の会）・松永聡美（日本鳥類保護連盟）・藤浦芳江（奄美野鳥の会）・小高信彦（森林総合研究所九州支所）
P014*	ハシブトガラスの羽毛の形態と色彩に関する研究	○馬庭千菜実 <sup>1</sup> ・Nathan Hagen <sup>2</sup> ・大谷幸利 <sup>2</sup> ・石川智治 <sup>2</sup> ・青山真人 <sup>1,3</sup> （ <sup>1</sup> 東京農工大連合農学、 <sup>2</sup> 宇都宮大学工/CORE、 <sup>3</sup> 宇都宮大学農）
P015	大阪府におけるイワツバメの繁殖分布の拡大と営巣場所の特徴	○和田岳（大阪市立自然史博物館）
P016*	カラス・カワウ・アオサギの足底部における神経組織の種類と分布について	○橘夕香・青山真人（宇都宮大院地域創生）・安藤隆寛・津田その子（中部電力）
P017	北海道大黒島で繁殖するコシジロウミツバメの利用海域と食性	○庄子晶子・中嶋千夏（筑波・生）・大門純平（大黒自然研究会）
P018*	種内の体色評価に画像利用は有効か？スペクトロメーターを利用した体色研究	○榛沢日菜子（北大・院理）・武居風香（北大・理）・高木昌興（北大・院理）
P019	北海道で繁殖するオオセグロカモメ腸内の細菌群集、エサ、コリスチン耐性菌の変動	○見坂武彦（摂南大理工、大阪大谷大薬）・岩田紗矢香・奥田絢帆・木寺夏麗・樋池渚・小野雄大・横山愛楽・上田翔太（大阪大谷大薬）
P020*	ケリ <i>Vanellus cinereus</i> の営巣行動とその行動圏の解明	○小丸奏（岐阜大大学院・自然）・伊藤健吾・森部絢嗣（岐阜大・応生）・田中智（京大・農）
P021	関東地方における30年間のオオヨシキリの個体群動態	○小田谷嘉弥（我孫子鳥博/菅生沼鳥類標識調査グループ）・吉丸博志・村岡哲而・河原孝行・廣居忠量（菅生沼鳥類標識調査グループ）
P022*	都市部における魚食性サギ科鳥類の採餌生態及び季節的变化に伴う採餌戦略の選択	○上本鈴華（京都大学）
P023	サロベツ周辺のガンカモ類の中継地	○長谷部真・嘉藤慎・村田朋弥・望月寧那・小松祐太（サロベツエコ）
P024*	シジュウカラの抱卵期において外気温が雌の抱卵と雄の給餌頻度に与える影響	○山崎駿（東海大・院・生物）・佐藤百合佳（東海大・生物）・松井晋（東海大・院・生物）
P025	宍道湖に大量飛来したトモエガモの飛行行動と採食地－4シーズン比較－	○森茂晃（ホシザキグリーン財団）・星野由美子（鳥根県立三瓶自然館）・安食一步（鳥根大学）・豊田暁

発表 番号*	タイトル	発表者
P026*	京都市周辺におけるトビによるヒトへの攻撃の実態	○清水陽華莉・Craig Barnett (京大院・理・動物生態)
P027	2022年度トモエガモ全国調査の報告	○櫻井佳明(加賀市鴨池観察館)・神山和夫(バードリサーチ)
P028*	鳥類の鳴き声行動の理解に対するロボット聴覚に基づく観測と生成進化モデル	○古山諒・鈴木麗壘(名大)・中臺一博(東工大)・有田隆也(名大)
P029	アオシギの夜間の生息環境の発見	○細谷淳(鳥類標識協会)・田谷昌仁・竹田山原楽(東北大学)
P030*	ノゴマの喉の赤い模様は個体の質の良さの指標になっているか?	○岩崎美穂・高木昌興(北大・院理・多様性生物)
P031	絶滅危惧種アカガシラカラスバトの個体数増加を可能にした遺伝的背景	○辻本大地(京大農)・高柳真世(東京動物園協会野生生物保全センター)・堀越和夫(小笠原自然文化研究所)・井鷲裕司(京大農)
P032*	ヒバリはさえずり飛翔において、いつ逆回転をするのか?	○佐々木美空・上條初音(北教大函館)・三上かつら(バードリサーチ)・三上修(北教大函館)
P033	ヒバリの求愛飛行実測の試み	○松林志保(関学)・斎藤史之(いであ)・鈴木麗壘(名大)・中臺一博(東工大)・奥乃博(京大)
P034*	ヒバリはさえずり飛翔において、どれくらいの高さまで上がるのか?	○大泉咲乃 <sup>1</sup> ・坂本結 <sup>1</sup> ・分道羽優 <sup>1</sup> ・三上かつら <sup>2</sup> ・三上修 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 北教大函館・ <sup>2</sup> バードリサーチ)
P035	イワヒバリの在不在に影響を与える要因の分析	○高木憲太郎(バードリサーチ)
P036*	モモイロペリカンの下顎湾曲のメカニズムについての解剖学的考察	○市川美和・遠藤和花・奥田ゆう・名取真人(岡山理大)・吉田純輝(福島県立博物館)・高崎竜司(University of Toronto)
P037	鳥島初寝崎のアホウドリ新営巣地の安定と個体群の増大	○富田直樹(山階鳥研)・今野怜・今野美和(山階鳥研協力調査員)・澤祐介・佐藤文男(山階鳥研)
P038*	シカの過食圧による食生環境の差異が鳥類群集に与える影響	○長谷川裕康(琉球大学理学部)
P039	Study on the Heron's Home range by tracker	○Sang-Min Jung, Dal-Ho Kim, Seung-Woo Han, Tehan Kang, Seung-Yeon Lee, Si-Wan Lee, Eun-Hong Lim (KIENV)

発表 番号*	タイトル	発表者
P040*	亜種リュウキュウオオコノハズクにおける翼の性的二形と育雛行動の関連	○江指万里(北大院・理)・宮城国太郎(沖縄野鳥の会)・熊谷隼・細江隼平・榛沢日菜子(北大院・理)・武居風香(北大・理)・高木昌興(北大院・理)
P041	沖縄島に生息するリュウキュウコノハズクの広告声と体サイズの関係	○武居風香(北大、理)・榛沢日菜子・高木昌興(北大、院理)
P042*	一夫一妻制鳥類のリュウキュウコノハズクは交尾声で異性を惹きつけるのか?	○金杉尚紀(北大・院理)・澤田明(国環研PD)・佐々木瑠太・細江隼平(北大・院理)・中臺一博(東京工業大学)・高木昌興(北大・院理)
P043	北海道根室におけるオオコノハズクの繁殖成績と巣内雛への給餌内容	○外山雅大(根室市歴史と自然の資料館)
P044*	同所で繁殖するアオバズクとコノハズクのフンのDNAを用いた採餌戦略の比較	○田谷昌仁(東北大学)・細谷淳(鳥類標識協会)・竹田山原楽・千葉聡(東北大学)
P045	長崎野母埼沖 - カンムリウミスズメ繁殖地の新たな可能性の追求	○植松一良・植松真理(NRDA アジア・アジアパシフィックベテリナリーサービス)、道下信博・崎坂伸也(大村ヨットクラブ)
P046*	一腹卵数が7卵のアカモズの観察記録とモズ属の一腹卵数の種間比較	○古巻翔平(北大院・理)・高木昌興(北大院・理)
P047	瀬戸内海(山口県上関町沖)でのカンムリウミスズメ群の採餌行動の一事例	○武石全慈・板橋敬・山本尚佳(上関の自然を守る会)・小濱鉄也(上関ネイチャープロジェクト)・高島美登里(上関の自然を守る会)
P048*	Population and impact of corvid predation on Japanese Murrelets ( <i>Synthliboramphus wumizusume</i> ): Insights from a breeding colony at Eboshijima, Japan	○Praeploy Kongsurakan (Nagasaki Univ.), Toru Nakahara (Kitakyushu Mus. Nat. Hist. Hum. Hist.), Noriyuki M. Yamaguchi (Nagasaki Univ.)
P049	カンムリウミスズメの人工巣の確立	○手嶋洋子・田尻浩伸・山本裕((公財)日本野鳥の会)
P050*	津軽平野で繁殖するゴイサギの繁殖期の行動パターンと渡り	○柴野未悠(弘前大・院・農生)・東信行(弘前大・農生)
P051	神奈川県におけるサギ類集団営巣地の現状について	○加藤ゆき(神奈川県博)・葉山久世(かながわ野生動物サポート)



発表 番号*	タイトル	発表者
P052*	鳥取県大山におけるジョウビタキの繁殖生態 ～行動遺伝学および分子遺伝学の観点から～	○楠ゆずは（日本野鳥の会・広島大学生物生産学部）
P053	東京近郊におけるアオサギ繁殖地の長期的動態－他のサギ・カワウとの関係と絡めて－	○白井剛（都留文科大／和光大）
P054*	日本で繁殖するチドリ類2種のミトコンドリアDNAを用いた遺伝的多様性と集団間の関係	○中嶋瑞美（信大院・総合理工学）・笠原里恵（信州大・理）・西海功（国立科学博物館）・榮村奈緒子（鹿児島大・農）・今野美和（北海道帯広市）・今野怜（北海道帯広市）・今西貞夫（長野県諏訪市）・東信行（弘前大・農生）・中村太士（北大院・農）・森本元（山階鳥類研究所）
P055	茨城県神栖市におけるシギ・チドリ類およびコアジサシの飛来・繁殖状況	○阿部仁美（千葉科学大）・奴賀俊光（千葉市野鳥の会）・北村亘（東京都市大）
P056*	九州北部におけるツバメの営巣地選択と好適環境の評価	○天野孝保・山口典之（長崎大・院・水環）
P057	スマートフォンを活用したミゾゴイ鳴き声調査の試行	○星野彰弘・稲葉弘之・吉道俊一・中谷聡・大橋直季（アルスコンサルタンツ(株)）
P058*	青森県東部の低地疎林におけるニューナイスズメの帰還率・帰還営巣率・営巣年数	○佐々木未悠（総研大）・高橋雅雄（岩手県立博物館）・蛭名純一（おおせっからんど）・東信行（弘前大学）
P059	東京都区部における巣立ち後間もないと思われるミゾゴイ幼鳥の観察例	○平岡考（(公財)山階鳥類研究所）・小山仁（東京都板橋区）
P060*	津軽平野におけるノスリの育雛期の生態	○埜田創（弘前大・農生）・ムラノ千恵・東信行（弘前大）
P061	スズメの巣を作るコシアカツバメの低い繁殖成功率	○福井亘（栃木・黒磯高校）
P062*	ヒクイナは巣立ち雛のために新たに“抱雛巣”をつくる	○大槻恒介（長崎大・院・水環）
P063	シロチドリはまもる君がお好きなようです。	○松村雅行 <sup>1</sup> ・橋本直喜 <sup>1</sup> ・奴賀俊光 <sup>1,2</sup> ・北村亘 <sup>1,3</sup> （ <sup>1</sup> NPO法人リトルターン・プロジェクト, <sup>2</sup> 日本野鳥の会, <sup>3</sup> 東京都市大）
P064*	ミソサザイの雄は繁殖なわばり争いに備えて越冬なわばりをもつ	○惣田彩可（京都大・理）

発表 番号*	タイトル	発表者
P065	谷津干潟における長期カウントデータの共有化	石川勉(東京都中央区)・守屋年史(バードリサーチ)・○渡辺朝一(さいたま市)
P066*	モズはチゴモズの生息地選択に影響するか?—空間・時間・環境からみる種間相互作用—	○立石幸輝(新潟大院・自然)・鎌田泰斗(新潟大・農)・高岡奏多(なし)・関島恒夫(新潟大・農)
P067	さまざまな環境における人工巢の捕食	○Craig Barnett (Kyoto University), Toshitaka Imaki (Sokendai)
P068*	6つの学校キャンパスにおける鳥類相と植生タイプの比較	○青木千紗(神戸女学院大院)・野寄玲児(神戸女学院大院)
P069	巣箱カメラの今どき事情	○関伸一(森林総研・関西)
P070*	系統・形質アプローチから解明する山岳の鳥類群集の群集集合	○飯島大智(都立大)・小林篤(環境省)・森本元(山階鳥研)・村上正志(千葉大)
P071	ダイトウメジロにおける巣立ち時・幼鳥期の体重格差は翌年以降も維持されるか	○堀江明香(大阪市立自然史博物館)
P072*	野生のウミネコのテロメア長は水銀暴露によって短縮する	○大野夏実(名城大学)・水谷友一(名古屋大学)・細田晃文(名城大学)・新妻靖章(名城大学)
P073	光害がオオミズナギドリに与える影響～誘引による落鳥とその特徴～	岩山響介(東洋大)・白井正樹(電中研)・小澤光莉・小島達樹・○伊藤元裕(東洋大)
P074*	オオミズナギドリの胃中プラスチック	○栗原達生・酒井理佐・重石幸樹(北大水産)・草地ゆき・長谷川潤(御蔵島のオオミズナギドリを守りたい有志の会)・新妻靖章(名城大農学部)・越智大介(水産研究・教育機構)・綿貫豊(北大水産)
P075	ノジコの高密度生息地における食性について	○末崎朗(長岡技大)・星野雄軌(山本山ネイチャーアカデミー)・山本麻希(長岡技大)
P076*	カラスはミズカビの分散者? : 鳥類の腐食と海洋-陸域生態系間の連結性強度の関係	○神力仁樹・赤坂卓美(帯広畜産大学保全生態学研究室)・橋本靖(帯広畜産大学微生物生態学研究室)
P077	津軽地域のカラス2種(非繁殖個体)の通年の就峙生態と移動距離の比較	○ムラノ千恵(弘前大・農生)・熊倉優太(岩手大院・連合農学)・工藤誠也(弘前大・農生)・笠原里恵(信大・理)・東信行(弘前大・農生)

発表 番号*	タイトル	発表者
P078*	ランダム撮影による就峙するカラス類の種判別方法の提案	○熊倉優太（岩手大・院・連合農学）・ムラノ千恵・工藤誠也（弘前大・農生）・東信行（岩手大・院・連合農学，弘前大・農生）
P079	金沢市の谷筋で同所的に繁殖するノジコとホオジロのソングエリア分布パターン	○出口翔大（福井市自然史博・ノジコ保全研）・手井修三（ノジコ保全研）・大坂英樹（トリルラボ）・吉田一郎（ノジコ保全研）
P080*	DNA バーコーディングで明らかになった、絶滅危惧種カヌムリワシの季節的な食性の差	○戸部有紗（京大・野生動物）・佐藤行人（琉大・医）・伊澤雅子（いのちのたび博物館）
P081	エナガは巣材に色付きの羽根を選ぶ？	○秋山幸也（相模原市立博物館）・藤井幹（日本鳥類保護連盟）
P082*	オナガガモの住血原虫感染に関連する生理学的要因	○大島遥香・森口紗千子（日獣大）・牛根奈々（ヤマザキ動物看護大）・若山絵夢（日獣大）・近藤潤矢・佐藤未来・黒木友香（日大）・佐藤雪太（岩手大）・嶋田哲郎（伊豆沼財団）・杉野目齊（仙台市）・足利直哉（わいるどらいふ秋田）・加藤卓也・羽山伸一（日獣大）
P083	琵琶湖南湖におけるハジロ属の個体数変化	○倉沢康大
P084*	他施設より搬入されたペンギン類における住血原虫感染状況および治療経過	○内藤美羽(日大獣医)
P085	ハトの果実食と生態系機能に関する包括的レビュー	○安藤温子(国環研), Javier Romero (IPNA-CSIC), Patricia Marrero (IPNA-CSIC), Manuel Nogales (IPNA-CSIC)
P086*	経年調査による神奈川県内の鳥類における住血原虫保有状況の解明	○佐藤未来・平野真珠・菅澤颯人・越後谷裕介(日大)・佐藤雪太(岩手大)
P087	ビショップ博物館所蔵の書簡からわかった80年前の標本交換	○小林さやか（山階鳥研）
P088*	凍結保存試料を用いた国内各地のヒヨドリにおける住血原虫保有状況の解明	○ <sup>1</sup> 甲藤美奈・ <sup>1</sup> 越後谷裕介・ <sup>2</sup> 佐藤雪太（ <sup>1</sup> 日本大学生物資源科学部獣医学科、 <sup>2</sup> 岩手大学農学部共同獣医学科）
P089	水田における大型渉禽類（コウノトリ・ダイサギ・アオサギ）の採餌行動と餌動物の特性	石川裕貴（総合環境計画）・○布野隆之（兵庫県大・院）

発表 番号*	タイトル	発表者
P090*	小笠原諸島で採集した海鳥巣材に含まれる種子の組成-海鳥による種子分散の観点から-	○水越かのん・上條隆志(筑波大)・川上和人(森林総研)
P091	兵庫県豊岡市出石町におけるコウノトリのカブトエビ類採食	○栗山(武田) 広子(コウノトリ市民レンジャー/コウノトリ市民研)
P092*	トキの野生復帰候補地における住民意識：能登地方でのアンケート調査から	○橋本駿(石川県立大院)・上野裕介(石川県立大)
P093	農法のバリエーションがコウノトリの出現に与える影響 異質性は生物多様性のカギ?	○伊崎実那 <sup>1</sup> ・今井洋太 <sup>2</sup> ・宮村良雄 <sup>3</sup> ・出口智広 <sup>1,4</sup> ( <sup>1</sup> 兵庫県大院 <sup>2</sup> 神戸高専 <sup>3</sup> コウノトリ市民レンジャー <sup>4</sup> コウノトリの郷公園)
P094*	能登半島でのトキ野生復帰に向けた環境保全型農業の取組みと水田の生物多様性調査	○西野莉子(石川県立大)・橋本駿(石川県立大院)・宇都宮大輔(珠洲市役所/能登SDGs ラボ)・上野裕介(石川県立大/能登SDGs ラボ)
P095	雨にも負けず、風にも負けず... 一自動撮影カメラ利用の有用性一	○山口恭弘(農研機構畜産研)・福田素久・佐藤智(山形大)・吉田保志子・益子美由希(農研機構畜産研)
P096*	センサーカメラを用いたブドウ園における加害鳥獣の把握	○末石萌乃・笠原里恵(信州大・理)・川田和輝・尾関竣哉・佐藤寛之(マリモ電子工業)
P097	鳥類の被害対策技術とその課題	○吉田保志子(農研機構)
P098*	博物図譜にみられる記録僅少鳥類の整理と再検討	○石井瞭
P099	誰が食べた? レンコンにみられる傷あと	○益子美由希・佐伯緑・山口恭弘・吉田保志子(農研機構)
P100*	江戸時代の歴史資料から探る北海道におけるワシの分布	○池田圭吾(北大・文)・久井貴世(北大院・文)
P101	胸骨の形状から鳥の種類を推定する試み	○清水伸彦(群馬自然史博)・姉崎智子(群馬自然史博)
P102*	国内飼育下ジェンツーペンギンにおけるつがい外父性の発生頻度の解明	○志村そら(岐阜大院自然研)・材津陽介(名古屋港水族館)・只野亮(岐阜大応生)
P103	ジェンツーペンギンにおける CT スキャナーを用いた骨髄骨形成評価	○伊東隆臣・森本大介(大阪・海遊館)・林昭次(岡山理科大学)・古家優・笹井和美(大阪公立大学)

発表 番号*	タイトル	発表者
P104*	水鳥の移動空間として重要な河川の特徴 － 景観・局所スケールでの評価	○竹重志織（放送大学）・澤祐介（山階鳥類 研究所）・島谷健一郎（統計数理研究所）・加 藤和弘（放送大学）
P105	江戸時代の鳥類について歴史資料から何 がわかるのか：北陸地方の資料を事例と して	○久井貴世（北大院・文）
P106*	染井霊園を利用する野鳥	○井上茉優（日本野鳥の会東京）・北村亘（東京 都市大学）
P107	鳥と人の西洋史、および伝統猟法につい て	○黒沢令子（バードリサーチ）
P108*	都市緑地において池の有無が昆虫食鳥類 の生態に及ぼす影響	○花輪万智（放送大）・小島純一（茨城大, XIN）・加藤和弘（放送大）
P109	大正・昭和期における籠抜け及び意図的 放鳥による飼鳥の野外への逸出	○西田澄子（東京都市大・院）・鶴見みや古 （山階鳥研）・北村亘（東京都市大・環境）
P110*	公立鳥取環境大学構内における鳥の窓ガ ラス衝突と紫外線カットフィルムを使っ た対策の効果	○市原晨太郎（北海道大学大学院環境科学 院）
P111	フライトコールによるヤイロチョウの渡 り調査 2～5年間の渡来時期の傾向～	○ <sup>1,2</sup> 植松永至・ <sup>1,3</sup> 佐野清貴・ <sup>1,4</sup> 峯光一・ <sup>1,5</sup> 鳥 飼久裕・ <sup>1</sup> 小倉豪・ <sup>1</sup> 溝口文男・ <sup>1,6</sup> 森下功啓・ <sup>1</sup> 中村豊・ <sup>1</sup> 中原聡・ <sup>1,7</sup> 中原亨・ <sup>1,8</sup> 岡部海都・ <sup>1,9</sup> 山口典之・ <sup>1,9</sup> 大槻恒介・ <sup>1,9</sup> 井上拓海・ <sup>1,10</sup> 上田 浩一・ <sup>1,11</sup> 貞光隆志・ <sup>1,11</sup> 西剛・ <sup>1,12</sup> 古田慎一・ <sup>1</sup> 楠木憲一・ <sup>1</sup> 岩本忠義・ <sup>1</sup> 平田智法・ <sup>1,13</sup> 中村滝 男・ <sup>1,14</sup> 森茂晃・ <sup>1,15</sup> 星野由美子・ <sup>1</sup> 黒田治男・ <sup>1</sup> 齊木孝・ <sup>1</sup> 牛込祐司・ <sup>1</sup> 松宮裕秋・ <sup>1,16</sup> 今森達 也・ <sup>1,16</sup> 増川勝二（ <sup>1</sup> ヤイロチョウ渡り調査 P チーム・ <sup>2</sup> 信州タカ渡り研・ <sup>3</sup> カンムリワシ R・ <sup>4</sup> 南西環境研・ <sup>5</sup> 奄美野鳥の会・ <sup>6</sup> 熊本高 専・ <sup>7</sup> 北九州市博・ <sup>8</sup> 九州環境管理協会・ <sup>9</sup> 長 崎大院・水環・ <sup>10</sup> 五島自然ネット・ <sup>11</sup> 対馬野 鳥の会・ <sup>12</sup> 関門タカ渡り会・ <sup>13</sup> 生態系トラス ト協会・ <sup>14</sup> ホシザキ G 財団・ <sup>15</sup> 三瓶自然館・ <sup>16</sup> 北陸鳥類研）
P112*	集約的農業景観における鳥類の保全と生 態系サービスの享受に対する休閑緑肥圃 場の貢献	○森真結子・赤坂卓美（帯広畜産大学 保全生 態学研究室）

発表 番号*	タイトル	発表者
P113	アジアにおける越冬地の草地モニタリングに関する初の試み	○シンバ・チャン (バードリサーチ), Thet Zaw Naing、Thiri Dae We Aung (ミャンマー), Ayuwat Jearwattanakanok (タイ), Bou Vorsak (カンボジア)、Banson Leung, Yu Yat Tung (香港), Krishna Prasad Bhusal (ネパール) et al.
P114*	マイクロホンアレイを用いた渡り鳥の群れの飛行ルート推定	○山本悠貴(弘前大)・鈴木麗璽(名大)・中臺一博(東工大)・東信行(弘前大)
P115	ドローンを用いた森林性猛禽類の繁殖状況調査の効果・効率	○谷祐樹・今森達也(北陸鳥類調査研究所)
P116*	高速ビデオ画像を用いた遠距離鳥類識別システム	○島崎航平・李俊豪・石井抱 (広島大)
P117	釣り糸・釣り針が死因と考えられた沿岸性海鳥の生前の行動：GPS 装着個体の記録	○平田和彦 (千葉中央博・分館海博)・徳長ゆり香 (北大・院・獣医)・方波見守一 (潮来野鳥の会)・川内雄太 (日大・生物資源)・大島遥香 (日獣大・獣医)
P118*	飛翔体の高速ズームトラッキング撮影システム	○緒方琢人・胡少鵬・島崎航平・石井抱
P119	外来種ガビチョウの個体数増加が在来鳥類に及ぼす影響	西川大生・○風間健太郎 (早大・人間科学)
P120	一日の埒利用個体数の変化からみたウミウとヒメウの相違点	○田中雅宏 (日大生物博)
P121	東京都に繁殖する外来種ワカケホンセイインコの巣箱を用いた繁殖生態の観察事例	○松永聡美(日本鳥類保護連盟)・西田澄子(東京都市大学)・北村亘(東京都市大学)・藤井幹(日本鳥類保護連盟)
P122	イヌワシの生息環境改善に向けた地域住民との新たな保護活動 (報告その1)	○小澤俊樹・白石俊明・浅井溪太・石崎友紀子・佐々木洋和・畑田稔幸・吉津祐子 (イヌワシ保護協会)
P123	イヌワシを見せてまもる試み～営巣のYouTube ライブ公開	○須藤明子・吉田智幸・柴野哲也・須藤一成 (Eaglet Office Inc.)
P124	北上高地におけるイヌワシの巣の特徴と繁殖成績	○前田琢 (岩手県環境保健研究センター)
P125	日本国内におけるイヌワシの繁殖の継続を安定的に支える要因の検討	○木本祥太 (日本野鳥の会石川)・板谷浩男 (パシフィックコンサルタンツ株)・長船裕紀 ((一社)鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会)・守屋年史 (バードリサーチ)・上野裕介 (石川県立大)

発表 番号*	タイトル	発表者
P126	オオタカ巢内雛の日齢早見表	○牛込祐司・岸川嘉史・藤本卓矢（株式会社コンパス）
P127	北海道十勝平野におけるオオタカおよびハイタカの繁殖の成否とノスリとの距離	○平井克亥（北海道ラプター）
P128	北アルプス北部立山高山帯におけるワシミミズク <i>Bubo bubo</i> の確認	松田勉・大塚伸・竹内祥生（富山雷鳥研）、江田真毅・泉洋江（北大総合博物館）、○堀田昌伸（長野県環境保全研）
P129	エゾフクロウのペリットを用いた DNA 解析法の検討	望月虎太郎・安宅野乃花・早矢仕有子・○新沼協（北海学園大）
P130	奄美大島の森林における鳥類の音声モニタリング～フクロウ類 2 種の鳴声検出～	○榮村奈緒子・藤田志歩・大重直明・蜂須賀莉子・比江島尚真（鹿大）・村中智明（名大）・畑邦彦・川西基博・田金秀一郎・渡部俊太郎・鈴木英治・鶴川信（鹿大）
P131	シマフクロウは絶滅危惧から 100 つがいまで回復した -現状と次のステップ-	○竹中健（シマフクロウ環境研究会）
P132	鳴き声の音源定位によるシマフクロウの生息位置把握の試み	○土門優介・鈴木祐太郎・石塚正仁・内山秀樹（(株)ドーコン）・矢野幹也（(株)セ・プラン）・鈴木麗壘（名古屋大学 大学院情報科学研究科）・中臺一博（東京工業大学 工学院）
P133	体部計測値によるタンチョウの性判別の試み	○吉野智生（釧路市動物園）
P134	鳥類音声種判別トレーニングツール「とりトレ」がアップデート！スマホ対応などでより使いやすく	○小川結衣・深澤圭太・吉岡明良・熊田那央（国環研）
P135	スマートホンを用いた市民参加型ツバメ巣調査と広報メディアの効果	○大坂英樹（トリルラボ）・出口翔大（福井市自然史博物館）
P136	ミャンマー語の鳥類図鑑アプリケーションの開発	○檜橋真理環（九州大学）・Win Win Nwe（Forest Research Institute, Myanmar）・西海功（国立科学博物館）・佐藤 敦郎（九州大学）

【高校生ポスター発表】

コアタイム：16日（土）12：30～14：30

会場：自然科学本館 1階 オープンスペース

発表 番号	タイトル	学校名	発表者
Y1	スズメと口笛の関係（口笛に誘導されるスズメの行動）	逗子開成高等学校	石渡戸優
Y2	明けに盛んに鳴くスズメたちの間にコミュニケーションは存在するかー音声の連続回数に着目してー	神戸大学附属中等教育学校	増田咲希
Y3	奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究	奈良女子大学附属中等教育学校 SSH 研究会生物班	荻巣樹
Y4	GPS を使ったカラスバトの生態解明	都立国分寺高等学校生物部 GPS 班	納谷莉子・小林悠吾・石川陸人・山田美弥・小寺真生・牟田暖叶・鈴木匠・木村凌久・西田翔馬・富岡あかり・石灰七季
Y5	ハクセキレイの子育てにおける親の行動 2	岐阜県立大垣北高等学校自然科学部ハクセキレイ班	野原明衣・川崎友唯・秋森楓・松尾京香・岩田拓朗
Y6	カラスバトの音声コミュニケーションについて	都立国分寺高校生物部	相田麻衣・中村悠季・納谷莉子・田村晴
Y7	京都府南部におけるシジュウカラの分布密度とシジュウカラ語の解析	京都府立南陽高等学校自然科学部	林佐和
Y8	東京都の小規模河川に生息するコサギの夜間採餌について	中央大学附属高等学校	遠藤勇志
Y9	コウノトリのヒナにおける鳴き声の変化	筑波大学附属高等学校	松林美月
Y10	校内における野鳥の種数及び生態調査	二松学舎大学附属柏高等学校 2 年	大塚莉心
Y11	幾何学的形態測定法(geometric morphometrics)による鳥類の足根中足骨の形状解析	石川県立大聖寺高等学校 2 年	松浦ほの花
Y12	カイツブリの繁殖を追い！～井の頭公園のカイツブリ調査報告～	むさしの学園小学校	櫻庭蓮之介・高橋雅雄



【自由集会】

15日（金） 17：30～19：30 自然科学本館 1階

発表番号	会場	タイトル	主催者
W01	101 講義室	シカの過食圧による植生環境の差異が鳥類群集に与える影響	長谷川裕康（琉球大学理学部）
W02	103 講義室	草原性希少鳥類と種の保存法	浦達也（日本野鳥の会）
W03	104 講義室	みんなで作ろう！目録8版（その4）	西海功・金井裕・山崎剛史・小田谷嘉弥・亀谷辰朗・齋藤武馬・平岡考・平田和彦・池長裕史・板谷浩男・梶田学・大西敏一・西沢文吾・先崎理之・高木慎介・梅垣佑介（目録編集委員会）
W04	105 講義室	ヨタカの生態 – これまでの研究とこれからの課題 –	多田英行（日本野鳥の会岡山）・河村和洋（森林総研）
W05	107 講義室	カワウを通じて野生動物と人との共存を考える（その25） – DNAメタバーコーディング –	熊田那央（バードリサーチ）

16日（土） 17：30～19：30 自然科学本館 1階

発表番号	会場	タイトル	主催者
W06	レクチャーホール	野鳥の観察を取り撤く現状と課題	板谷浩男・早矢仕有子・渡部良樹・高橋満彦・須藤明子・富岡辰先・守屋年史
W07	AV 講義室	鳥類学者はLiDARで何を見るか？～大空を自由に舞う鳥たちを捕捉する革新的技術～	三上修（北教大）・上野裕介（石川県立大）徳永尚起（建設環境）・茨田匡・北村亘（東京都市大）
W08	101 講義室	第5回標本集会 江戸時代の鳥を知ろう	小林さやか・岩見恭子（山階鳥研）・加藤ゆき（神奈川県博）
W09	103 講義室	小鳥の渡り経路を描く：渡り追跡研究の全国展開を目指して	青木大輔（森林総研）・澤祐介（山階鳥研）
W10	104 講義室	若手の会 presents 「生物学と生物機械工学で鳥類の翼の機能と進化に迫る！」	姜雅珺（千葉大）・山崎優佑（バードリサーチ）・田谷昌仁（東北大）・飯島大智（都立大）・水村春香（富士山研）・犬丸瑞枝（国立感染症研究所）・井上遠（バードライフ）・村山友太（ソフトバンク）・村上正志（千葉大）・劉浩（千葉大）

W11	105 講義室	風力発電等 WG が作成した「洋上風力発電建設に係る環境アセスメントガイドライン」	佐藤重穂（森林総研, 鳥類保護委）・風間健太郎（早大）・浦達也（日本野鳥の会, 鳥類保護委）・會田義明（環境省）
-----	---------	---	--

**【展示販売】**

会場：自然科学本館 1階 オープンスペース

ブース 番号	出展者	展示・販売内容
1	公益財団法人日本野鳥の会	書籍、グッズ
2	谷口高司鳥絵工房	野鳥図鑑画家が描く、正しく美しい野鳥を用いた オリジナル商品
3	株式会社ティンバーテック	鳥類調査用 GPS タグ /他
4	包み屋（くるみや）	野鳥柄のハンドメイドアクセサリー・グッズ
5	Biologging Solutions 株式会社	LTE-M 通信 GPS データロガー
6	栃木屋工房	野鳥グッズ
7	Lotek Wireless	ロガー、発信機
8	野鳥生活	絵画・布小物・文具・ステッカー
9	Druid Technology	GPS ロガーなど
10	a-tori-net プロジェクト	野鳥をまもる 防鳥ネット
11	株式会社キュービック・アイ	アルゴス送信機・衛星データ伝送サービス

日本鳥学会 2023 年度大会 講演要旨集

2023 年 9 月発行

編集・発行 日本鳥学会 2023 年度大会実行委員会  
大会会長 大河原恭祐（金沢大学）  
大会実行委員長 上野裕介（石川県立大学）  
大会事務局長 北村俊平（石川県立大学）  
実行委員 大坂英樹（トリルラボ）  
木本祥太（石川県庁／日本野鳥の会石川）  
近藤崇（石川県白山自然保護センター）  
櫻井佳明（加賀市鴨池観察館）  
田尻浩伸（日本野鳥の会自然保護室）  
出口翔太（福井市自然史博物館）  
中村真帆（株式会社国土開発センター）  
前正人（株式会社国土開発センター）  
山川将径（株式会社国土開発センター）

表紙 箕輪義隆

協力 日本鳥学会企画委員会  
日本鳥学会広報委員会  
日本鳥学会大会支援委員会

会計監査 高橋満彦（富山大学）

印刷所 有限会社 コーチ印刷  
E-mail:coach@aioros.ocn.ne.jp

日本鳥学会  
会長 綿貫 豊

URL <https://ornithology.jp/>

（学会に関するお問い合わせ）

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番 12 新宿ラムダックスビル（株）春恒社 日本鳥学会係

TEL: 03-5291-6231, FAX: 03-5291-2176, E-mail: osj@shunkosha.com